

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

1125年にモンゴル系契丹の建てた遼が滅亡して以来、モンゴル高原は有力勢力不在の状態にあった。1206年、テムジンが遊牧騎馬集団を 新たな軍事的組織 にまとめてモンゴル高原を統一し、ハンの地位についた。これがチンギス^[1] = ハンである。チンギス = ハンはアム川下流の 朝や中国西北部の西夏を征服して東西の交易路を確保するなど、大モンゴル国の基礎を確立した。

大モンゴル国は、1234年には金を征服して農耕地帯へも進出し、さらに西方への大規模な遠征を行った。バトゥに率いられた遠征軍は東ヨーロッパに向かい、ポーランド・ドイツ諸侯の連合軍を圧倒したが、 = ハンが没したため遠征をやめ、ロシア平原にキプチャク = ハン国を建国した。その後、西アジアにはフラグが向かい、アッバース朝を滅ぼしたが、シリア・エジプトへの侵入は 朝に阻止され、西アジアの地にイル = ハン国を建国した。

南宋攻撃に専念していたフビライが1260年大モンゴル国のハンに即位すると、 = ハンの孫にあたる がキプチャク = ハン国やチャガタイ = ハン国の諸王と結んで反乱を起こし、これを機に大モンゴル国は分裂の傾向を強めた。フビライ = ハンは1271年に国号を元（大元ウルス）と改め、1276年には南宋を滅ぼして中国全土を支配した。その後大モンゴル国は元を宗主国とし、他のハン国がこれと連合する体制に落ち着いた。元と各ハン国は東西交易路を確保して経済的に相互に結び付いたため、陸路・海路を通じた交易が発達し、福建省の港市 は、当時世界第一の貿易港として西方に紹介された。その中で 東西交流も活発化 し、元には西方からさまざまな人々が訪れた。13世紀末にはフランチェスコ派の修道士 がローマ教皇の命をうけてイタリアを出発した後、イル = ハン国を經由して海路 に上陸し、中国最初のカトリック伝道者になった。

14世紀半ばに元は朱元璋の建てた明によって中国を追われ、これと前後して各ハン国も変容を遂げていった。チャガタイ = ハン国は東西に分裂し、その後西チャガタイ = ハン国からは が登場して中央アジアばかりでなく西アジアをも統一した。一方、キプチャク = ハン国は支配下の モスクワ大公国 や黒海北岸のクリム = ハン国などの台頭によって衰退していった。^[3]